

はじめに

安全管理意識をスタッフ全員が共有するために作成されたのが、この安全管理マニュアルです。このマニュアルは、最低年に 1 回の評価と改善を行います。

遊びの中での子どもの冒険と、不用意に大事故を起こさない遊び場は両立するという考え方のもとに、発見したリスクの整理と評価を行うことで、事故が起きる確率を最小化し、事故が起きたときのダメージを最小化します。

この安全管理マニュアルを運営していく中で、修正・追加すべき事項が出てくると思います。適宜、指摘していきましょう。誰もが安心して過ごせる空間にするためにはどうしたら良いのか、みんなで考えていけると良いです。よろしくお願いします。

目次

0.根尾川むいむいの森とは？

1. 活動における基本的なリスクマネジメント

- (1) ケガや事故を発生させないための環境づくり
- (2) 組織体制と情報伝達方法
- (3) 参加者情報の把握
- (4) 参加者への安全に関する説明
- (5) 活動中止の判断基準

2. 安全管理の流れ

- (1) リスクの予知・予測
- (2) 活動前のミーティング
- (3) 活動中のリスク管理
- (4) 活動後の振り返り
- (5) プログラムを実施する場合

3. 事故発生・災害時

- (1) 事故発生・災害時の連絡先
- (2) 事故発生時の対応チャート

- (3) 災害時
- 4. 体調管理について
 - (1) 低体温症
 - (2) 熱中症・脱水症状
 - (3) 医療行為（医行為）について
- 5. 感染症
- 6. 不審者
- 7. 道具・遊具の管理点検
- 8. 事故防止の学習
- 9. 保険
- 10. 個人情報について
- 11. 注意事項
- 12. その他
 - (1) 携行品

(別添)

- ・ヒヤリハットシート
- ・通報用シート
- ・ハザードマップ

0. 根尾川むいむいの森とは？

むいむいの森は、私たちが世俗から少しだけ距離を置いて、のんびりすごすための共有森林です。

ありのままに生きる人々や、社会に居心地の悪さを感じる人々の、居場所になるかもしれません。

休んでもいい 休まなくてもいい。ただ一緒にいてもいいアジール（自由領域）を目指しています。

むい・しぜん 【無為自然】

作為がなく、自然のままであること。ことさらに知や欲をはたらかせず、自然に生きること。

1. 活動における基本的なリスクマネジメント

(1) 怪我や事故を発生させないための環境づくり

- ・活動前・活動中・活動後の安全管理計画を作成する。
- ・実施後に、全員で活動を振り返り、次回に活かす。
- ・救急セットを携行する。
- ・衛生管理に留意する。

(2) 組織体制と情報伝達方法

- ・スタッフの参加予定を確認する
- ・スタッフの緊急連絡先（LINE と電話番号）を把握する
- ・リスク全体を管理する安全管理者を置く。 安全管理者：伊東
- ・活動中の連絡は主に LINE グループを使用する。

(3) 参加者情報の把握

- ・初回に参加者情報を登録してもらう他、年度初めにも情報を保護者に確認する

① 基本情報

☐氏名 ☐生年月日 ☐住所 ☐連絡先 ☐保護者の氏名と連絡先（電話・メール）

② 健康に関すること

☐既往症、アレルギーなどの持病に関すること ☐日常的に使っている薬とその用法
☐健康に関する心配ごとや伝達事項など

③ 性格や対人関係で特に配慮が必要なこと

④ 塗り薬の使用の可否

⑤ 写真の使用について

・活動毎の状況

- ① 健康状態：簡易的な体調のチェックをし、必要があれば他のスタッフに共有する。
- ② お迎え・帰宅：お迎えに来る人（子どもを引き渡す大人）を明確にする。子どもだけで帰る場合は、誰とどのようにして帰るかを聞いておく。

(4) 参加者への安全に関する説明

・保護者への確認

- ① 年度初めに、①アレルギー②常備薬の有無（エピペンなど）③既往症④かかりつけ医⑤薬の塗布の可否⑥子どもの写真の SNS 等での公開の可否を確認する。
- ② 薬の服用は、スタッフの判断では行わない
- ③ 薬の塗布は極力行わないが、痛みや痒みが特に強い場合などはステロイド入り抗ヒスタミン剤を塗布することがある。塗布して良いかを、登録時に保護者に確認する。
- ④ 活動中にケガ、湿疹、アレルギー反応等があり、病院で診察を受ける場合は、原則として保護者が付き添う。スタッフが付き添うことになった場合も、スタッフが医療処置についての責任を完全に負うことはできないため、対応は保護者に委ねる。
- ⑤ 病状に心配がある場合は、保護者と事前に相談をしておく。
- ⑥ その他体調不良などで保護者に連絡することがある。
- ⑦ 未就学児は保護者同伴の場合のみ参加できる。
- ⑧ 登録時に、確認事項の内容を伝え、参加申込書兼同意書（別紙）に記入してもらう。

・参加者への確認

自分の身は自分で守る意識をもつことが必要。そのために活動前や必要に応じてセーフティートークを行う。

セーフティートークは、具体的にかつ、簡潔に伝えること。理由（結果につながる原因）についても伝えると良い。

○セーフティートークのポイント

場所について	活動可能な範囲（目印） 立ち入り禁止場所の説明 避難経路
危険予知ポイント	特に注意すべき点 3-5 点程度に絞り込む ○人に関する 意識、体力、行動 ～少しでも調子が悪いと思ったら伝えること～ ○環境に関する 服装、用具、地形、天候、動植物 ～危険生物を見たら、静かにそっと離れること～
活動の時間	活動開始と終了の目安や、休憩のタイミング
緊急時の対応方法	スタッフへの連絡の仕方、救護場所

心の安全（安心）	活動中の相談方法
その他	持ち物について

(5) 活動中止の判断基準

・参加者、スタッフの経験、体力、天候など、活動に関わる様々な条件に照らし合わせて活動の実施・中止を判断する。屋外での活動のため、学校等の一般的な施設よりも慎重な判断が必要となる。

・中止および荒天時プログラムの変更判断は、季節毎の傾向、当日までの天気の推移を予見しながら、複数人で話し合い、活動開始3時間前までに決定する。

①気象庁から災害に関する警報や特別警報が発令された時

②警戒レベル3以上がでている場合

③風速7mを超える強風が予測される時。

④川の水位が警戒レベルを超えると予測されるとき

参考：国土交通省 川の防災情報 → 根尾川「山口」

⑤集合・帰宅困難が発生するなどの交通障害の発生が予測されるとき

⑥子どもの人数に対して、スタッフの人数が充分でないとき

2. 安全管理の流れ

(1) リスクの予知・予測

・以前の活動から日にちが経っている場合や、大雨強風積雪のあと、またプログラム実施前には、事前に下見を行うこと（落下枝もチェックする）

・前回の活動から日にちがたっていない場合は、前回の活動が下見を兼ねる。

・下見は極力スタッフ全員で行う。下見に参加できないスタッフは中心的役割を担わないこと。

(2) 活動前のミーティング

・スタッフの人数と配置や連絡方法などを打ち合わせる。

・活動の内容がスタッフの能力とかみあわないと判断される場合は、活動の範囲をスタッフの実情に合わせ、リスクが軽減されるように変更する。

・具体的なスケジュールを確認し、経験や個人的技能を考慮した役割分担を行う。

・危険箇所などについての確認と回避・対策について検討する。

○活動前チェックリスト

✓	内容	
	下見時リスク	
	スタッフ体制	

	場所	
	道具・持ち物・服装	
	催行基準	
	参加者への確認事項	

(3) 活動中のリスク管理

- ・危険な現象、危険個所、危険な行為を観察する。
 - ☐活動内容に起因する危険 ☐自然の状況に起因する危険
 - ☐人の状況に起因する危険 ☐道具・用具に起因する危険
- ・状況の変化を観察し、必要に応じて他のスタッフへの共有を行う（LINE グループを使用）
- ・緊急時にはホイッスルで周囲に知らせる。
- ・翌日以降のことは、振り返り、スタッフミーティングで確認する。

○活動中チェックリスト

✓	内容	
	気象状況	
	下見時リスク確認事項再確認	
	道具・装備の数量、品質確認	
	運動能力（持久力、筋力など）	
	行動態度（ルール、自己流、軽率、無知など）	
	意識感情（注意散漫、抵抗、過剰高揚など）	
	個別で注意が必要なこと（アレルギーなど）	

(4) 活動後の振り返り

スタッフで振り返りを行い、感じたことを率直に話し、モヤモヤを持ち帰らないようにする。改善点などは次回の活動に反映できるようにするとともに、リスクマネジメントの質を向上させるような話し合いになるよう心がける。

- ・活動時の怪我、病気、心配だったできごとなどを話し合う
- ・日誌の作成
- ・保護者とのやりとりを共有する。保護者への連絡が必要である場合、担当者を決める。
- ・ヒヤリハットがあった場合、ヒヤリハットシートを記入する（別表）

○活動後チェックリスト

✓	内容	
	物品の確認	
	対応必要案件についての記録	
	次回の準備（告知など）	

(5) プログラムを実施する場合

- ・一日の流れを考えてプログラムを計画する。過密なスケジュールは、参加者の疲労を招き、時間の余裕を失うため、プログラムの取捨選択を行うこと。
- ・参加者の年齢、経験、体力、天候、スタッフの経験や個人的技能などを考慮して行うこと。
- ・プログラムのレシピ（実施上必要な項目を網羅したもの）を作成し、スタッフ間で共有する。

3. 事故発生・災害時

(1) 事故発生・災害時の連絡先

近くの医療機関	長瀬診療所	0585-56-3003
	谷汲中央診療所	0585-56-3133
緊急時（迷った時も）	救急車	1 1 9
相談	揖斐地域救急医療情報センター ^	0585-32-3799
総合病院	西濃厚生病院	0585-36-1100
AED 設置場所	長瀬診療所	0585-56-3003
	谷汲中央診療所	0585-56-3133

マムシ	救急車	1 1 9
ヤマカガシ	救急車 + ジャパンスネークセンター	0277-78-5193
毒植物、食あたり	救急車	1 1 9
	大阪中毒 110 番	072-727-2499
	つくば中毒 110 番	029-852-9999
指定緊急避難場所	旧ながせ幼稚園	谷汲長瀬 2565

事故後の家庭との トラブル等	NPO 法人自然体験活動推進協議会 (CONE)	
-------------------	-----------------------------	--

(2) 事故発生時の対応チャート

○緊急を要する

周囲の安全確認・二次災害の防止

ホイッスルで周囲に知らせる→他のスタッフは怪我人以外の子どもたちを集めて退避
意識・出血の確認



救急車を呼ぶ 住所「岐阜県揖斐郡揖斐川町 谷汲長瀬 485」

応急処置

状況の記録（通報用シート）



情報の整理と共有

本人と保護者のケア

保険の手続き

※事故対応費用（病院へのタクシー利用、お見舞いの購入など）も保険の対象となります

○軽いけが

応急処置



保護者へ連絡 顔面の怪我は形成外科（24 時間以内）受診も検討



振り返りで情報の整理と共有

必要に応じて「ヒヤリハットシート」の記入

本人と保護者のケア（その後の様子を聞く）の役割分担確認

受診した場合は保険の手続き

(3) 災害時

①火災

・発見者：119 番

・他のスタッフ：子どもたちを集めて避難（荷物は取りに行かない）・人数確認

②地震

・揺れが収まるのを待つ。

・「だんごむしのポーズ」または「丈夫な木にしがみつく」

・落ち着いたら避難

③雷

☐積乱雲 ☐雷鳴 ☐ナウキャスト情報

→壁がある建物や車に避難 建物の住所「岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲長瀬 8 7 7」

×テント、東屋は危険

4. 体調管理について

少しでも調子が悪いと思った時には伝えること。伝えやすい環境をつくること。

(1) 低体温症

汗をかいて体が濡れたままになっていると体温が奪われる。汗をかいたら着替えたりし

て、体が濡れた状態で長時間過ごさないようにすること。

(2) 熱中症、脱水症状

喉が渴いたと感じる状態は脱水の始まり。脱水症状が続くと熱中症になるため、こまめに水分をとること。喉が渴いていなくても、30分毎に一口水を飲むなど、定期的な水分補給を心がける。帽子を被らないでいると熱中症になる危険が高まる。「暑いときは脱ぐ、寒いときは着る」というこまめな体温調節を心がけること。

体温低下を効果的に防ぎましょう

① 体温が奪われる「4つの経路」を断つ！

濡れ（気化熱）

水分が蒸発する（乾く）時、体温が奪われる！

体が濡れないように。濡れた場合は着替える又は拭き取る。
（やむを得ない場合はゴミ袋等で覆い水分の蒸発を防ぐ）

風（対流）

風が吹く（空気の対流）時体温は奪われる！

外側をタープやブルーシート等で覆い、体が直接風に当たらないようにして体温の低下を防ぐ。

熱放射（輻射熱）

熱放射（体が放出している熱）により、体温は奪われる！

エマージェンシーシート、毛布や寝袋などを巻き、熱の放射を閉じ込める。熱源を加えとなお良い。

底冷え（伝導）

地面やコンクリート等に直接ふれる時、体温は奪われる！

座る時や横になる時は、キャンプマットや段ボール等の断熱材の上に座る。
（接触面積は最小にとどめる）

【保温スタイルの実践例】



※写真は説明の為に前面をオープンにしています。実際には顔以外の開口部を作らないようにしましょう。

② カロリー摂取で熱を生産！

「水分補給」＋「糖質→炭水化物→タンパク質→脂質」の順でカロリー摂取。

温まったら脂質の追加補給で体温維持。 ※食べ物はアレルギーに注意。かならず確認してから。

③ 「止まらない震え＋強い眠気」は 119 or 110 番で救助要請！

“暑いとき”に気をつけたい…

熱射病の「手前で予防」

“暑さ”の中で“だるい”と感じたら；

「活動を中止」＋「涼しい環境へ移動」＋「喉の渇きに依りて飲水＋食べ物」を！！

熱射病になると…（死に至る、体温の異常上昇）

“意識がおかしく”なり、“触ると体が異常に熱い”、は命にかかわる熱射病のサインです。

「急速に冷却（全身を冷水に漬ける＋かき混ぜる）」＋「119番/110番通報」を！！

※ 下着にして全身を濡らし扇ぐことが最低ライン。動脈にアイスバックを充てるだけでは間に合いません。）

© Wilderness Medical Associates Japan all right received.

(3) 医療行為（医行為）について

医師、看護師等の医療に関する免許を有しない者が医療行為（医行為）を行うことはできない。

・医療行為（医行為）でないものの判断基準

- 1 水銀体温計・電子体温計により腋下で体温を計測すること、及び耳式電子体温計により外耳道で体温を測定すること
- 2 自動血圧測定器により血圧を測定すること
- 3 新生児以外の者であって入院治療の必要がないものに対して、動脈血酸素飽和度を測定するため、パルスオキシメータを装着すること
- 4 軽微な切り傷、擦り傷、やけど等について、専門的な判断や技術を必要としない処置をすること(汚物で汚れたガーゼの交換を含む。)
- 5 患者の状態が以下の3条件を満たしていることを医師、歯科医師又は看護職員が確認し、これらの免許を有しない者による医薬品の使用の介助ができることを本人又は家族に伝えている場合に、事前の本人又は家族の具体的な依頼に基づき、医師の処方を受け、あらかじめ薬袋等により患者ごとに区分し授与された医薬品について、医師又は歯科医師の処方及び薬剤師の服薬指導の上、看護職員の保健指導・助言を遵守した医薬品の使用を介助すること。具体的には、皮膚への軟膏の塗布(褥瘡の処置を除く。)、皮膚への湿布の貼付、点眼薬の点眼、一包化された内用薬の内服(舌下錠の使用も含む)、肛門からの坐薬挿入又は鼻腔粘膜への薬剤噴霧を介助すること。
 - ① 患者が入院・入所して治療する必要がなく容態が安定していること
 - ② 副作用の危険性や投薬量の調整等のため、医師又は看護職員による継続的な容態の経過観察が必要である場合ではないこと
 - ③ 内用薬については誤嚥の可能性、坐薬については肛門からの出血の可能性など、当該医薬品の使用の方法そのものについて専門的な配慮が必要な場合ではないこと

厚生労働省○医師法第17条、歯科医師法第17条及び保健師助産師看護師法第31条の解釈について(通知) より引用

5. 感染症

- ・感染症にかかった場合は速やかに報告し、感染を拡げないように努める。
- ・学校感染症(学校保健安全法施行規則第18条で定められている感染症)にかかっている、またはかかっている疑いがある、あるいはかかるおそれがある人は、活動に参加できない。
- ・感染症の予防上必要があるときは、活動を中止する。

6. 不審者

- ・予防：挨拶、見送る
- ・緊急時：通報。子どもの安全確保。相手と距離をとる。相手を興奮させない。拘束は警察

に任せる。

・事後：怪我の確認。危害の有無に関わらず 110 番。不審者の特徴（行動、人相、衣服、車種、ナンバーなど）を伝える。

7. 道具・遊具の管理点検

- ・道具
- ・遊具

8. 事故防止の学習

- ・救急講習：1 年に 1 度、消防署による救急講習を受ける
- ・川の安全講習：毎年、川の時期が始まる前に、川の安全講習を受ける
- ・避難訓練：1 年に 1 度、避難の方法と避難経路を確認する
- ・安全確認：1 年に 1 度、ガイドラインの見直し、エビペンの使い方実習などを行う。
- ・その他：危険植物等について、随時学習していく

9. 保険

- ・よだか総合研究所では以下の保険に加入しています

保険の種類：NPO 総合保険

保険の内容：賠償責任保険・傷害保険

保険金額：身体賠償 1 事故 2 億円 財物賠償 1 事故 50 万円・死亡 100 万円 入院
3,000 円/日 通院 3,000 円/日

(有) カワサキ保険センター 岐阜市栗野東 1 丁目 33 Tel 058-237-1313

・活動期間中と自宅から活動場所への往復中の事故について、保険適応範囲内でのみ保障される

- ・保険適用が必要な場合は、速やかに安全管理者に連絡する
- ・保険手続きに必要な情報

☐記入者（担当者） ☐事故日時 ☐事故場所

☐ケガをした人の氏名・性別・生年月日・年齢・住所・電話番号

☐親権者の氏名・電話番号 ☐病院名 ☐病院電話番号 ☐事故状況

10. 個人情報について

・個人情報の管理：個人情報は活動実施に必要な場合に、根尾川むいむいの森（よだか総合研究所）のみで取り扱う。ただし万が一の事故等による緊急対応が必要な場合は、個人情報を第三者に開示することがある。

・SNS 等に投稿する際には、氏名を含む個人情報を隠すこと。写真は、掲載可の人のみを使用すること。

11. 注意事項

- ・ コミュニティービジネス等の勧誘はしない
- ・ 個人 SNS 利用については個人の判断に委ねる
- ・ 差別、ハラスメント行為の禁止

12. その他

(1) 携行品

・ スタッフの持ち物

- ☐ スマートフォン（充電しておく） ☐ ホイッスル ☐ 筆記用具 ☐ タオル、手ぬぐい
- ☐ 保冷剤もしくは凍らせたペットボトル ☐ 着替え

・ 救急ポーチ

- ☐ ポイズンリムーバー ☐ マダニ用ピンセット ☐ とげ抜きピンセット
- ☐ 体温計 ☐ 爪切り ☐ ハサミ ☐ 液体せっけん ☐ セロハンテープ（毒毛の除去）
- ☐ ガーゼ ☐ 包帯 ☐ サージカルテープ ☐ 絆創膏（中・大） ☐ ゴム手袋
- ☐ ティッシュ ☐ 清浄綿 ☐ 虫刺されの薬（ムヒα） ☐ 緊急通報シート ☐ 筆記具
- ☐ エマージェンシーシート ☐ 粉末のスポーツドリンク

(別添)

根尾川むいむいの森 ヒヤリハット・事故 振り返りシート

□ 重症 □ 軽傷 □ 無傷	氏名		記録者	
	いつ	年 月 日	時 分ごろ	
	どこで			

経緯（子どもの動き、大人の動き）・図

想定されるより深刻な状況

対応	症状の確認	応急処置
	部位： 症状： 反応（泣く、痛がる、怖がる等）：	☐ 心肺蘇生 ☐ 絆創膏 ☐ 圧迫止血 ☐ ガーゼ ☐ 冷却 ☐ 湿布 ☐ 保温 ☐ その他 []

保護者	☐ Tel 対応者： →保護者方針 ☐ 様子を見てほしい ☐ 迎えに行きます ☐ その他 [] ☐ お迎え時 対応者： → ☐ 受診を勧めた（受診した場合は連絡をもらう） ☐ 悪化した場合は連絡をもらうよう伝えた ☐ 次回もしくは翌日に、症状・体調の確認 担当者： _____	
-----	---	--

要因分析	なぜ起きたか（環境、人、道具…）	今後の対応
------	------------------	-------

シート作成の目安

・意識なし/不明 ・大出血 ・意識あり ・首から上のケガ（心配なもの） ・誤飲、誤食、窒息、水おぼれ ・やけど ・深い傷、広範囲の傷	・時間を経て、ケガの症状の悪化が心配されるもの ・似た状況が繰り返し起きていて対応が必要と考えられるもの
--	---

緊急判断・通報シート

傷病者発生時、救助要請判断に活用ください。

① 下線に当てはまる場合、緊急通報 **119** or **110** で救助要請を！！

現場の場所			
意識（反応）	<u>なし</u> ・ <u>おかしい</u> ・あり	おびただしい量の出血	<u>あり</u> ・なし
呼吸	<u>なし</u> ・ <u>おかしい</u> （苦しそう・変な音がする等）・いつも通り		
頭部や背中に強い衝撃を受けている可能性			<u>あり</u> ・なし

傷病者氏名		傷病者連絡先	
性別	男性・女性	年齢	

② 救急車を呼ぶべきか迷ったら；

- ◇ 救急安心センター（#7119 番） 宮城県・埼玉県・東京都・神奈川県・大阪府・奈良県・福岡県などで実施
- ◇ 小児救急でんわ相談（#8000 番） 全国都道府県（一部深夜も実施）

③ 救助要請の後、救急/救助到着までの間に・・・

- ◇ 傷病者を環境から保護。寒い季節には裏面を参考に傷病者を保温。
- ◇ 傷病者に関する情報を集め、救急隊への引き継ぎ準備を。

なぜ、こうなったのか？		主な訴え（不調など）	
アレルギー		飲んでいる薬	
既往症（関連する病歴）		直前の飲食や排泄の状態	
記録時刻		救助者氏名 電話番号	

※このシートを使用された際には WMAJ へご連絡いただければ幸いです。（使用のフィードバックを集めています）



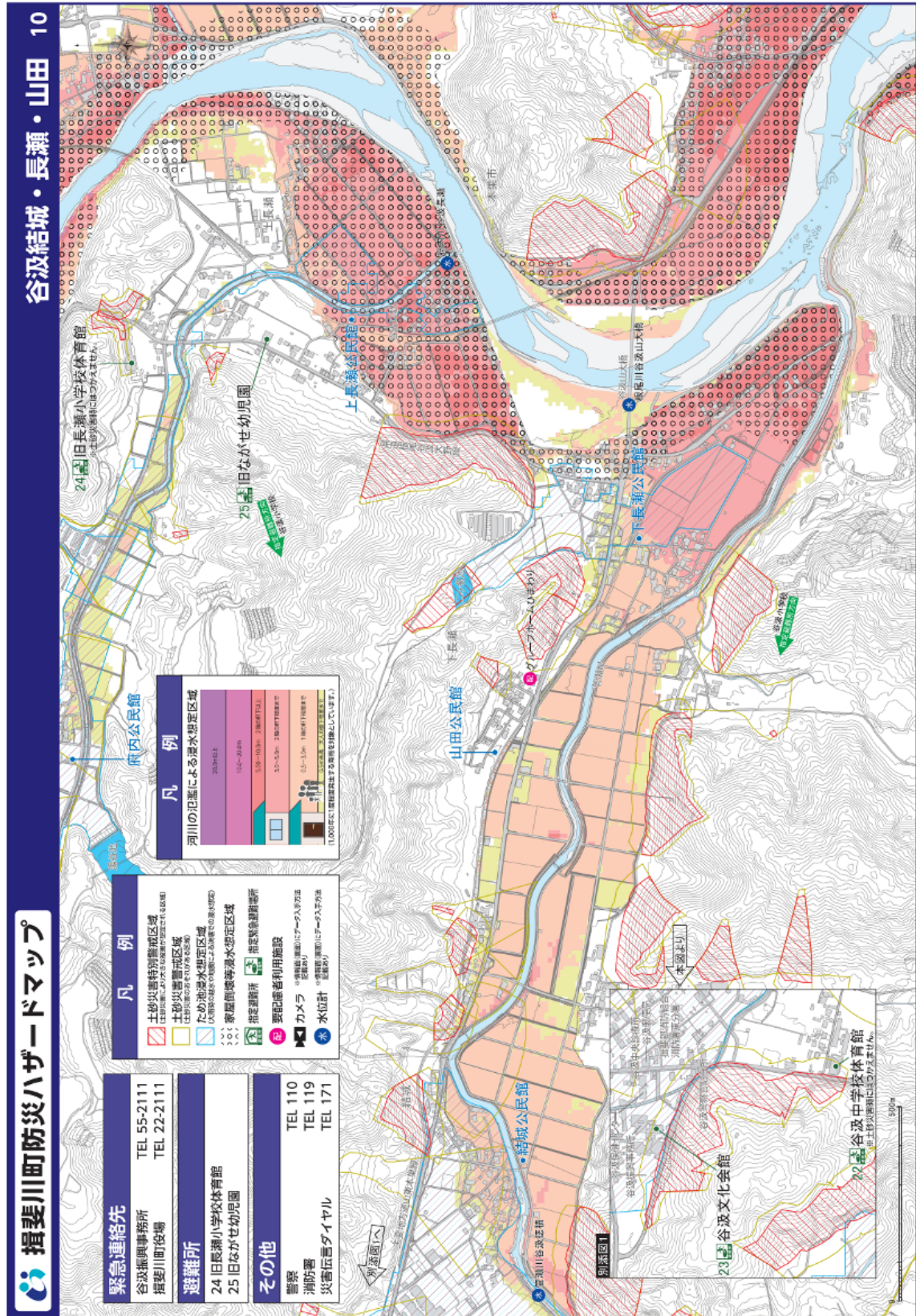
一般社団法人 **ウィルダネスメディカルアソシエイツジャパン**

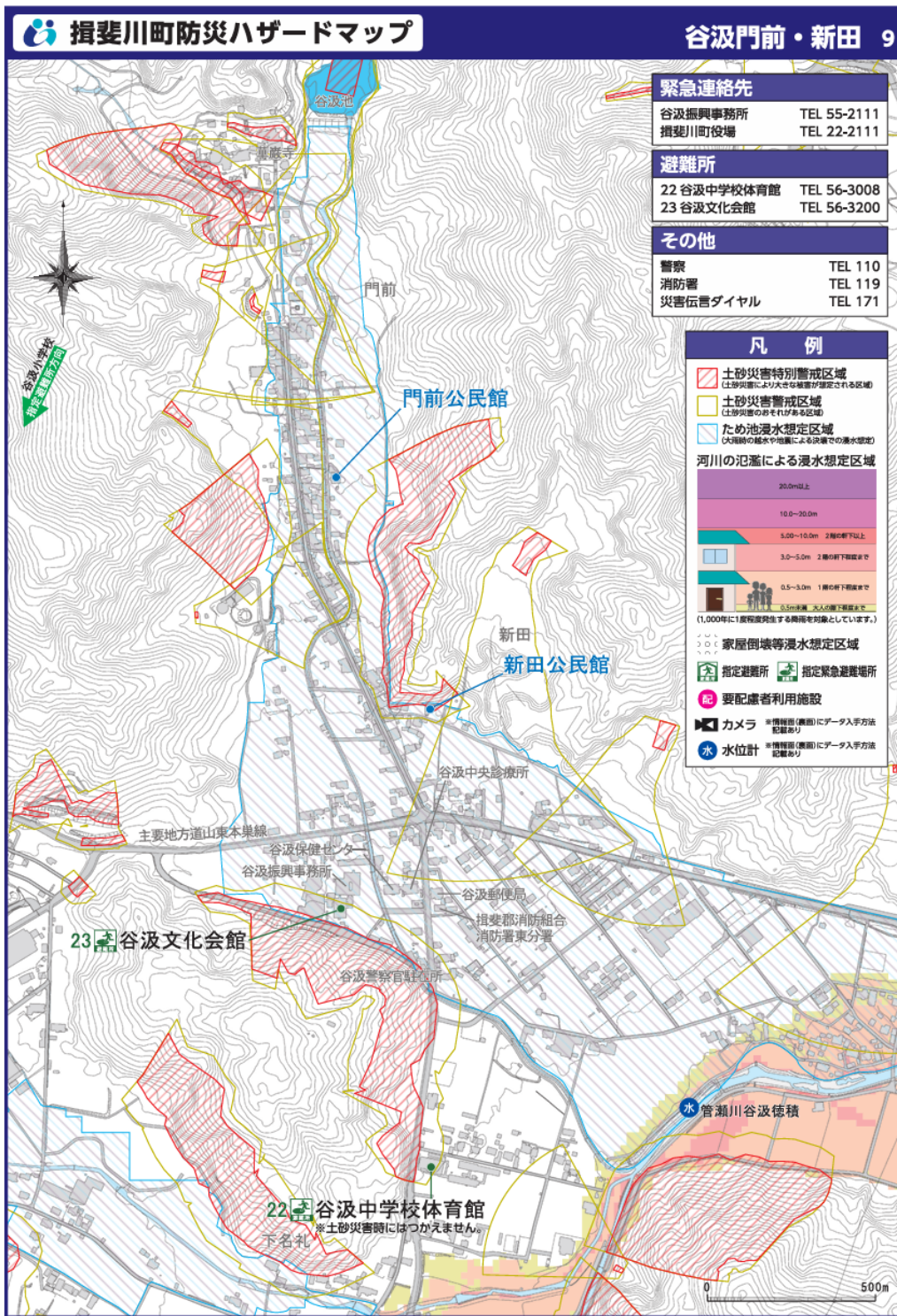
30 以上国で選ばれる世界基準「WMA ブランド」の野外・災害救急法。
講習会は全国で開催中！

www.wildmed.jp



ハザードマップ





※このハザードマップは、河川管理者(国土交通省、岐阜県)が示した洪水浸水想定区域図及び水害危険情報図、岐阜県が指定した土砂災害(特別)警戒区域を基に作成しています。